

平成29年度 U32 YOC 参加報告書

東京都所属審判員

桑原 一貴

1	派遣事業名	U32 YOC(ヤングオフィシャルズキャンプ)	
2	大会名	B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME2018	
3	派遣期間	平成30年1月5日(金) 平成30年1月6日(土)	
4	目的	若年層からFIBALレフェリー、トップリーグレフェリーの育成	
5	開催地・会場	千葉県浦安市 浦安市運動公園総合体育館	
6	実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3POメカニクス、座学</li> <li>・ガイドライン(判定基準)解説</li> <li>・英語コミュニケーション実践</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	
7	講師	1月5日(金)	平育雄氏 / 片寄達氏 / 佐藤誠氏 / 加藤誉樹氏 / 漆間大吾氏 / 上田篤拓氏
		1月6日(土)	関口知之氏 / 平育雄氏 / 細田知宏氏 / 有澤重行氏 / 堀内純氏 / 上田篤拓氏
8	受講生	政氏拓留氏(北海道) / 高橋伸禎氏(北海道) / 関根梨奈氏(宮城県) / 川熊俊氏(宮城県) / 阿部ちひろ氏(岩手県) / 穂川苑子氏(群馬県) / 赤羽沙耶氏(栃木県) / 大井陽平氏(埼玉県) / 山口堯彰氏(東京都) / 松浦咲氏(東京都) / 五十嵐菜美氏(東京都) / 了舟文弥氏(石川県) / 伊藤純一氏(長野県) / 田中沙紀氏(愛知県) / 竹平圭吾氏(愛知県) / 近藤賢氏(愛知県) / 松本拓真氏(愛知県) / 木村健太郎氏(和歌山県) / 浅野祐樹氏(大阪府) / 大倉哲也氏(大阪府) / 市川雄介氏 / 大嶋将之氏(岡山県) / 山本皓紀氏(山口県) / 若山輝紀氏(徳島県) / 池田隼人氏(愛媛県) / 西和馬氏(徳島県) / 山口勝真氏(長崎県) / 山中萌衣氏(鹿児島県) / 松永雄平氏(長崎県) / 桑原一貴(東京都) 計30名(名簿順)	
9	内容	1月5日(金)	
		上田氏による3PO解説	
		3POのメカニクスについて重点的にお話がありました。試合を始める際の3人のそれぞれのポジションからトスアップした後の動き基本的なローテーションについて確認をしました。プライマリーのエリアとアングルがあるということから映像を使い確認をしました。センターから次の攻撃のセンターへ行く際には、歩いたりジョグで移動するのではなくアスレチックに走ることが大切という話がありました。センターサイドにボールが進んできたときの体の角度やポジションによってトレイルとの協力もできるのでしっかりと体の角度にも注意したいと感じました。2POをメインにしてきたのでセンターというポジションに少し慣れない部分もあるが、プライマリーのアングル・エリアの意識が必要とお話がありました。3人でとても重要なこととしてこのメカニクスの理解がとても求められると感じました。同じ理解の上で判定すべき人が判定をして試合を進めることが理想的だと感じます。	

9	内容	<p style="text-align: center;">加藤氏による講話</p> <p>正しい判定と同じくらいにプレゼンテーションが大切というお話がありました。中でも印象的なお話にプレゼンテーションの方法についてお話がありました。声を使うこと・シグナル・体格・試合を担当する責任感と様々な要素がプレゼンテーションに含まれます。自信のなさそうなプレゼンテーションは、コーチや選手へ不信感や判定へ疑問を持たせてしまうこともあるのでプレゼンテーションはとても大切であると感じました。また声を使うことはとても重要であるというお話がありました。レポートの時はもちろんですが、様々な場面で使う機会は多くあり積極的に使っていきたいと感じました。アリーナや大きな体育館では会場も広く歓声や音楽が流れる中で選手やテーブル、コーチにも伝わるコミュニケーションが必要なのでしっかりと意識をして声を使っていきたいと感じました。シグナルについても鏡の前でしっかりと練習が必要というお話がありました。</p> <p style="text-align: center;">実技について</p> <p>初日は3人1クルーとなり3試合を担当しました。実技の中では、主に午前中の講義の内容に沿ったお話をいただきました。メカニクスに関しては、トレイルの時にステイする時間が長いというご指摘をいただきました。大きなアングルで捉えながらも常にポジションを変えながらアングルを捉えるように修正しました。プレゼンテーションに関しては、声を使うことに関しては今後もさらに大きな声や会場全体がわかるような工夫を続けていけると尚いいというお話をいただきました。修正が必要な点として、走るときや常に顎を引いてしまう癖があるというお話をいただきました。家でも鏡の前や自分自身の映像などを駆使しながら、プレゼンテーションについても工夫をしていきたいと考えます。</p> <p style="text-align: center;">コート研修</p> <p>5日の実技を受けて受講生の多くが抱えている課題について、研修がありました。3POのセンターとトレイルの視野の当て方やリードの3ポイントシュートのアシストの方法や体の角度などを研修しました。また午前中の講義にもあったように声を使ったプレゼンテーションについてもありました。講師の加藤氏と漆間氏が実際に声を使ってレポートをしていただきました。私自身の実技でも声を使うように意識をしていましたが、お二人の声の大きさを聞くと自分自身の声の小ささを実感しました。トップリーグの会場では音楽や歓声もある中で、有効な声を使うには大きな声や通る声を使ったプレゼンテーションが要求されるのでさらに声の使い方には工夫が必要と感じました。声を使うことは、意識をするだけで変えられることなので積極的に使いながら自分自身の技術の一部にしていきたいです。</p> <p style="text-align: center;">1月6日(土)</p> <p style="text-align: center;">ワークショップ</p> <p>事前に配布された映像をもとに各班で担当した時間帯の映像についてグループで英語で意見交換とグループとしての意見をまとめました。映像を見る上で、メカニクス・プレゼンテーション・ジャッジメントの3点について注目しました。グループで話した内容で1番印象的な会話の内容として、上記の注目した3点は独立したものではないという話でした。正しく判定をする為のメカニクスも必要であり、プレゼンテーション次第でゲームコントロールにも影響があるという話をしました。事前に映像を見て臨みましたが同じ現象でも様々な視点での意見が出されたことがとても新鮮でした。1つの現象においても何度も再生と巻き戻しを使いながら映像を分析することで、メカニクスやプレゼンテーションの勉強にもなりました。今後も映像を分析する上でもとても参考になる機会となりました。</p>
---	----	---

9	内容	<p style="text-align: center;">実技について</p> <p>10人1班で1日それぞれの試合で変わるクルーで実技を行いました。大会自体も2日目ということで決勝リーグを行い、どの試合も接戦で厳しい試合が行われました。メカニクスについては、1日目の課題を主に集中的に意識をして取り組みました。視野も広く全体的な像が見えていた分、細かい動きを意識することでポジションアジャストしやすくなり新たな見え方が体感できました。コート研修でもお話があったようにセンターの体の角度によってトレイルともチームワークを持った3POが実施できました。課題としてあげられたことは、タイムアウトや交代の合図をテーブルが鳴らす前に鳴らしてしまうことがあった点についてご指摘していただきました。気を配ることは必要である一方で、先に鳴らしてしまうことのもリスクもしっかりと考えなくてはいけないので正しい手順を踏んだ手続きをした方が良くとお話いただきました。</p>
10	感想	<p>平素から東京都や私の連盟においても多くのトップリーグを担当している方とお話しする機会や私自身も多く準備して今回のキャンプへ参加させていただきました。しかし、3POのメカニクスにおいても平素コート上で考えている何倍もの自分のプライマリへ集中する大切さを感じる2日間でした。</p> <p>今回のキャンプの目的の1つにもありますFIBAレフェリーの育成という観点からも“英語力”と“対話力”の重要性を感じました。起きた事象を1つひとつ判定していくことと同等に自分の判定した内容や考えをクルーやスタッフ、ゲーム中や後に説明する際に英語力は今以上に必要であると感じました。加えて2日という短い間にも全国各地から普段の活動内容や仕事などバスケット以外の取り巻く環境や趣味などを英語で話すにも対話力が必要であると感じました。今後トップリーグや国際大会、全国大会などの派遣の際には初めて会う方とクルーとなりゲームを運営していくという観点では日本語でも英語でも対話力は重要な要素であると感じました。</p> <p>更にこのキャンプでは、事前の課題や受講生の情報を共有していただくような環境をJBAの方が多く作っていただきました。このような多くの方による準備や当日にも細部に渡り多くのご配慮いただけたおかげで私たち受講生が集中してキャンプに臨むことができました。キャンプの運営に携われた皆様に感謝申し上げます。</p> <p>最後になりますが、U32 YOC派遣にあたり推薦していただきました久保審判委員長をはじめ、日頃よりご指導を頂いております東京都、関東実業団連盟の皆様にも感謝申し上げます。</p>